

# 都小音研

令和4年7月8日第64巻441号

発行所  
東京都小学校音楽教育研究会

事務所  
東京都稲城市矢野口3635  
稲城市立南山小学校

## つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを

東京都小学校音楽教育研究会  
会長 峯岸敦子  
(世田谷区立八幡小学校長)

新型コロナウイルス感染症が私たちの日常を大きく変え、人の流れが停滞しても、季節は歩みを止めることなく、もう本格的な暑さの夏へと廻っていきます。先生方におかれましては新年度のスタートからやっと、ひと段落したところではないでしょうか。昨年度に引き続き東京都小学校音楽教育研究会会長を務めさせていただきます、世田谷区立八幡小学校長の峯岸敦子です。今年度は、3年ぶりに参集による総会・講演会を開催し、限られた人数ながら会員の皆さまと直接お会いして都小音研をスタートすることができました。また、理事会や各種研究会の研修も、徐々に従来行ってきた形で行うことができるようになってきました。



さて、都小音研の研究は12のゾーンの持ち回りによる研究大会が特徴となっています。今年度は、渋谷区・世田谷区・町田市による山の手Dゾーンが研究発表を行います。多摩南ゾーン、山の手Cゾーンと過去2回の研究大会は、新型コロナウイルス感染症との闘いだったといっても過言ではありません。2年半前にゾーンの準備会を立ち上げるときに、感染症の拡大傾向にあった山の手Dゾーン大会は、最初から人流が制限されているなかでの研究発表という想定で考えてきたものです。その上、大会の会場として最有力候補の国立オリンピックセンターの改修工事による使用不可、他の会場も見つけられないという状況で、学校開催という新たな形を考えることになったのです。感染症の状況によって、大勢の人を1校に集めることができないうことから、渋谷1・世田谷2・町田1の4会場に分かれての研究大会となりました。他の教科でも授業公開を伴う研究大会はオンラインの生配信やハイブリッドによる研究協議会で行われることが多くなりました。音楽科の場合、複数の楽曲使用に伴う著作権料の問題や、複数の地域にまたがる場合の動画配信の許可に関する問題など、考えなければならない問題がいろいろとあり、その準備は簡単なものではありません。

このようにこの3年間で様変わりした都小音研の研究体制ですが、変わらずに大事にしてきたものがあります。それは「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを」と掲げてきた都小音研の研究主題です。先日、会員の皆さんの手元に配布された令和4年度都小音研名簿の76ページからにある各地区の研究主題からも、音楽専科の先生方が何を大事に、授業改善を行おうとしているのかが分かります。改めて、子供の学びを止めないという努力を、それぞれの学校において先生方がなされていることに心から感謝します。

「GIGAスクール構想」によりICT機器の活用がすすみ、そのほかキャリア教育、STEAM教育、ESD教育などの重点施策への取組みも求められています。何のために音楽を学ぶのか、音楽を学ぶ価値を私たち教師も問い直されていると思います。これに対する明確な答えのないままに、感染症の収束傾向とともに以前の学校教育や音楽の授業を再開するということだけでは、子供たちに未来を生き抜く力を付けていくことができないのではないかと思います。「生かそう 音楽の学びを」東京都小学校音楽教育の充実・発展と子供たちの未来のために、共に力を合わせ全力で取り組んでまいりましょう。

## ◆ 総 会

去る4月21日(木)、3年ぶりに理事が参集しての総会が開催されました。《第一部～議事・感謝状贈呈》、《第二部～研究会～各種研究会紹介・山の手Dゾーンの研究について・志民先生によるご講演》、《第三部～理事会～会則の改定・運営各部からの事務連絡》の三部で行われ、充実した会となりました。

### ▶ 第一部

- 総会議事：議事は滞りなく進み、承認されました。
- 感謝状の贈呈：飯島満子校長先生、川上真珠美先生、早川修一先生へ授与されました。名誉会友となられた3人のうち、当日参加されたお2人からは、都小音研への感謝のお気持ちと、「子供が主役の音楽づくりをめざしてください」との励ましのお言葉をいただきました。

### ▶ 第二部

- 各種研究会紹介：都小音研10の研究会の代表者が集まり、それぞれの研究会の活動内容や成果などを紹介しました。
- 山の手Dゾーン研究について：プレゼンテーションを使い大会研究主題や研究内容や進め方などについての報告がありました。

### ▶ 第三部

- 都小音研会則について：会則に一部改訂がありました。各校配布された会則をご覧ください。
- 運営各係より：今年度の運営各係の紹介がありました。



## ◆ 講演報告

演題：「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 文化庁参事官(芸術文化担当)付 教科調査官  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 志民一成 先生

★先生のお話の内容のほんの一部ですがご紹介いたします。

### ○「小学校音楽科の目標」の実現

音楽科の目標を踏まえ、(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力等 (3)学びに向かう力、人間性等を授業の中で実現していくことが、最終的に今回のテーマにつながっていく。これが実現されているかをチェックする際に必要となるのが、「音楽的な見方・考え方を働かせる」ということ。「音楽的」に関わるところが重要で、それには「感性」が欠かせない。心が動かされないと音楽を「自己のイメージや感情」と関連付けることはできないし「見方・考え方」にもつながらない。

### ○「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

「ダイバーシティ」「多様性」ということは、教育においてもこれから大切なものとして考えていく必要があるのではないか。そのための視点として答申であげられているのは①個別最適な学び ②協働的な学び である。どちらも、新しいことではなく、今までやってきたことを整理している。音楽科としてはどちらも非常に相性がよく、授業改善に向けて充実させていく必要がある。

### ○StuDX Style

ICTの活用については、文部科学省の「StuDX Style」というページの中で、小学校音楽科の事例もあるので、ぜひ活用してほしい。ただし、やはり実際に見る、聴く、触れるなどの身体感覚を働かせて学習する活動が重要で、音楽科としてその部分をしっかり保証していくということ、どういう目的でICTを活用しているのか考えていくことが重要である。

### ○山の手Dゾーンの研究主題について

自らが学習課題を見だし、課題解決に向かっていく児童の育成を目指していらっしゃるのが素晴らしい。評価でいえば主体的に学習に取り組む態度、自らの学習を調整しようとする側面とも関連が深い。これは低学年では難しく、高学年に向かって、低・中学年で自己表現・自己開放をできる風土の耕しが必要となってくる。さらに主体的な学びの視点からは、「なりたい自分になるためにはどうしたらよいか」「よりよい自分になるためには音楽をどう生かせるか」といったことも考えられるような学びとなることが重要になってくると思われる。

最後は、「先生方が子供たちのロールモデルとして豊かに音楽と関わって、音楽を実践していくことが意味のあることではないかと考えますので、先生方ご自身の音楽との関わりを大切にしながら、授業づくりを進めていただきたいと思います。」とのお言葉をいただき、講演が締めくくられました。

志民先生の詳しいご講演の内容や資料は都小音研研究部がまとめ、ホームページにアップされています。どうぞご覧ください。



## 山の手Cゾーン 研究報告会



○日時：5月10日(火) 午後2時30分～ ○会場：世田谷区立八幡小学校

1月27日に予定されていた研究大会は紙面開催となりましたが、当日は人数を限定して報告会を行いました。全体会の後、各分科会に分かれ、大会当日に公開する予定だった動画を視聴し、研究成果等の報告を伺いました。限られた人数ではありましたが、助言者の先生方や名誉会友の方々もいらしてくださり、熱意に包まれた充実した時間となりました。



### 【研究報告会 参会者アンケートより抜粋】

- 研究演奏：映像でしたが、体をのりだすように歌う子供たちの生き生きとした表情や、曲と向き合って、たくさん考えて歌っていることが伝わってきました。
- 研究授業：コロナ禍の中で活動にもある程度の制限がかかっているところ、Cゾーンの先生方が試行錯誤して授業をつくっていかれたことが伝わりました。
- 「音楽が得意で働がいい子にしか分からない授業はしない」「教えることと考えさせることを考える」など助言者の言葉を、私も重く受け止めました。
- 皆様の努力に敬意を表します。音楽はまだまだ厳しい状況が続くと思いますが、研究の灯をどうぞ守り育ててください。

(名誉会友の方より)

## 今年度の研究について

研究部長 半野田 恵 (立川市立第三小学校)

都小音研の研究主題である『つなげよう 深めよう 生かそう 音楽の学びを』は、学習指導要領の改訂と共に、令和元年度の全日音研総合大会小学校部会研究大会より設定しました。

昨年度、山の手Cゾーン(品川区・目黒区・大田区)では、研究主題『つなげよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽』から「主体的・対話的で深い学び」の視点を三つ設け、研究を進めました。この研究の成果を受け、本年度、山の手Dゾーン(世田谷区・渋谷区・町田市)では、『見つけよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽』の研究主題のもと、令和5年1月27日の大会に向けてゾーン研究に取り組んでいます。

「見つける」を、自らの学習課題を見だし、課題解決に向けて学ぶ児童の姿と捉え、児童が音楽活動の楽しさを実感しながら主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、研究を進めています。

大会当日は午前中に、研究授業動画を視聴していただき、協議会を4会場にて行います。午後には、動画による研究演奏を試聴していただき、研究発表と講評・講演は、4会場へリアルタイム配信をする予定です。私たち教師が今できる最善な指導方法を見つけ、一人一人の指導力を磨いていくことが、児童の学びの広がりにつながっていくと考えます。ゾーン大会の研究が、東京都の先生方の授業づくりの一助となり、広がっていくことを願っています。

## 山の手Dゾーン大会に向けて

大会推進委員長 加藤 幸 (町田市立鶴川第三小学校)

山の手Dゾーンは、23区内の渋谷区と世田谷区、すぐ隣は神奈川県という町田市の3区市で構成されています。お互いの距離が離れているだけでなく、準備を始めた頃は新型コロナウイルス感染症も再拡大しており、毎回の研究推進委員会もオンラインでの開催がほとんどでした。直接顔を合わせていたらもう少し自由に意見を言い合えたかもしれません。そんなもどかしさも感じながら研究は進んでいきました。

3区市で連携して研究を進めていくにあたり、それぞれの児童の実態や指導上の課題を把握するために教員の意識調査を行いました。そこから見えた教員側の課題や音楽科で目指す資質・能力の育成、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の在り方から、「見つける」「広げる」「生かす」というキーワードにたどりつき、大会の研究主題を「見つけよう 広げよう 生かそう 私たちの音楽」と設定しました。研究の内容には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指した視点を持ち、手立てを考えて取り組んでいます。感染状況の先行きが不透明なこともあり、山の手Dゾーンでは研究授業と研究演奏を動画により発表することを早くに決定しました。また、当日は4つの学校が会場となり、動画を視聴した上で協議会を行います。全体会は4会場を同時につないで行う予定です。

多摩南ゾーン大会、昨年度の山の手Cゾーン大会と、2年続けて開催方法の変更を余儀なくされてしまいましたが、今年度は大会開催が実現できるよう願うばかりです。Cゾーン大会に引き続き、感染症とともに変化した形での挑むこの大会に、是非ご参会いただけますよう、よろしく願いいたします。

## 第59回 児童作曲コンクールについて

事業部

第59回を迎える児童作曲コンクールは、本研究会の歴史ある事業となっております。応募要項(6月理事会以降に各地区理事より配布)をご覧のうえ、奮ってご応募ください。音楽で思いや願いを表現する児童の作品が、たくさん生まれることを楽しみにしております。

(A) 課題詩の部 ※ことばのリズムやアクセントを生かして旋律をつくるようにご助言ください。

「おやつの時間」 浅田 真知 詩

「森はみどりのシャワー」 二瓶 みち子 詩

(B) 自由作品の部 (自由旋律) ・自由ア 旋律のみのもの(自作の歌詞は可)

・自由イ 伴奏等がついたもの

◇作品受付期間 令和4年9月8日(木)～9月15日(木)〈必着〉

◇授賞式・入選作品演奏発表会 令和5年2月10日(金) 会場:カスケードホール(千代田区)

◇作品応募に関する問合せ・応募先

【第59回児童作曲コンクール事務局】  
新宿区立牛込仲之小学校(脇田 秀男)  
〒162-0064 新宿区市谷仲之町4-33  
TEL03-3358-3762 FAX03-3358-3755

都小音研ホームページ(都小音研でも検索可)  
<http://tosyouonken.com/>



本コンクールの応募要項・五線紙などをプリントアウトすることもできます。どうぞご活用ください。

※なお、感染症拡大など、社会情勢の影響により、授賞式・入選作品演奏発表会の予定が変更される場合があります。

# 令和4・5年度 都小音研役員・運営機構 紹介

会 長：峯 岸 敦 子 (世田谷・八幡小)

副 会 長：坂 倉 理 恵 (八王子・鹿島小)  
 小 池 義 和 (葛飾・南奥戸小)  
 金 子 陽 子 (板橋・前野小)  
 大 湊 由 紀 子 (江東・亀高小)  
 岡 千 恵 (新宿・江戸川小)  
 玉 野 麻 衣 (大田・調布大塚小)  
 叶 こみち (北・八幡小)  
 石 井 ゆきこ (港・芝小)

理 事 長：山 根 まどか (稲城・南山小)

副 理 事 長：篠 澤 章 子 (荒川・尾久宮前小)  
 笛 木 毅 (世田谷・九品仏小)  
 島 田 朋 子 (板橋・志村第五小)

監 事：石 橋 悟 (江戸川・清新第一小)  
 藤 智 子 (足立・東淵江小)  
 後 藤 京 子 (練馬・南が丘小)

庶 務 部 長：山 田 まゆみ (江戸川・南小岩第二小)  
 副 部 長：根 本 潤 子 (新宿・花園小)  
 平 松 佳 子 (世田谷・給田小)

会 計 部 長：高 橋 冴 季 (三鷹・第七小)  
 副 部 長：桑 畑 多 恵 (三鷹・高山小)  
 白 田 友 加 (江東・東川小)  
 矢 代 真 由 (足立・花畑第一小)

研究部長：半野田 恵 (立川・第三小)  
 副部長：前 田 し の ぶ (豊島・池袋第三小)  
 藤 田 基 (世田谷・京西小)  
 田 村 泉 (大田・新宿小)  
 鈴 木 志津穂 (板橋・北野小)

調査部長：野 崎 眞 理 (文京・駕籠町小)  
 副部長：榎 本 悦 子 (立川・上砂川小)  
 小 室 有 香 (小平・小平第七小)  
 南 部 直 子 (荒川・第二瑞光小)  
 北 根 克 子 (西東京・田無小)

事業部長：脇 田 秀 男 (新宿・牛込仲之小)  
 副部長：井 上 奈 々 (千代田・千代田小)  
 藤 井 小百合 (足立・花保小)  
 伊 藤 友 貴 (江戸川・下鎌田西小)

広報部長：安 達 夕 希 子 (荒川・第九峡田小)  
 副部長：有 本 裕 美 (足立・千寿第八小)  
 猪 瀬 守 恵 (葛飾・細田小)  
 河 井 響 (練馬・練馬第三小)  
 小 林 聖 (板橋・志村第四小)

## \*各種研担当校長\*

指揮法：岡 千恵	編 曲：後藤 京子
合 唱：篠澤 章子	音楽授業：坂倉 理恵
管 楽 器：小池 義和	合 奏：石橋 悟
即興表現：苗木 毅	鑑賞指導：玉野 麻衣
邦楽教育：金子 陽子	電子楽器：山根まどか

## ♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈3月理事会〉3/11 於：世田谷区立八幡小学校 (オンライン)

議長：山畑 朗子 (品川・豊葉の杜学園)

○会長あいさつ

○議 事

- 令和4年度事業計画について
- 4月の行事予定について
- 令和4年度総会・研究会について
- 令和4年度都小音研研究大会について
- 各部より \*庶務 \*会計 \*研究 \*事業 \*調査 \*広報

〈4月理事会〉4/21 於：世田谷区立八幡小学校

議長：本多 麻央 (稲城・平尾小)

○会長あいさつ

○議 事

- 東京都小学校音楽教育研究会会則の改定について
- 各部より \*庶務 \*会計 \*研究 \*事業 \*調査 \*広報

〈6月理事会〉6/17 於：世田谷区立八幡小学校

議長：鈴木 瑞穂 (渋谷・西原小)

○会長あいさつ

○議 事

- 7月の行事予定について
- 令和4年度研究大会について
- 学ぶ理事会について
- 第59回児童作曲コンクールについて
- 各部より \*庶務 \*会計 \*研究 \*事業 \*調査 \*広報

## 広報「都小音研」今年度の発行計画

①64巻441号 7月発行  
 総会・講演報告、今年度の研究について 他

②65巻442号 12月発行  
 学ぶ理事会報告、各種研活動報告 他

③65巻443号 3月発行  
 ゾーン大会報告、作曲コンクール報告 他

## 編集後記

音楽朝会や金管バンドの朝練習など、もちろん感染症対策をしながらですが、校内にいろいろな音が戻ってきています。皆様の学校や地域はいかがでしょうか。今年度も、それぞれの場所で音楽活動が充実するよう、都小音研で情報交換をしていきましょう。(Y)

## 会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会 長 峯 岸 敦 子

編 集：広報部

印 刷：タイヨ一美術印刷株式会社